

【オリコンサル ハレックス 土砂災害 危険度合い可視化 15時間先まで】

土砂災害

危険度合い可視化

オリコンサル
ハレックス
15時間先まで

オリエンタルコンサルタ
ンツは19日、気象情報など
を提供するハレックス（東
京都品川区、藤岡浩之社長）
と共同で、土砂災害の危険
度合いを可視化するシステ
ムを開発したと発表した。
刻々と変化する災害危険度
を、15時間先まで1時間間
隔で可視化できるのが特
徴。東京都八丈町でシステ

ムを検証する実験を1日に
開始した。

システムでは降水短時間
予報は1キロメッシュデータ
を、数値標高モデルは10メ
ッシュデータを使用す
る。これまで可視化できな
かった、時々刻々と変化する
土砂災害発生危険度の高
い斜面をより細かく可視化
できるようになった。これ
により、地形や雨の降り方
の違で相対的に危険な斜面
が分かる。

危険度は簡易的な地下水
モデルによる水位を使った
斜面安定計算によって評価
する。15時間先の危険箇所
が10メッシュ単位で可視

化されるため、自治体など
が防災行政に効果的に活用
できる。具体的には、特に
配慮が必要な対象に、直接
的に避難を呼び掛けるなど
の避難支援活動が可能にな

る。

今後は八丈町での検証を
踏まえ、システムの精度を
高めていく。

豪雨による土砂災害が増
加している。自治体が土砂

災害ハザードマップを作成
したり、気象庁が災害危険
情報「キキクル」を提供し
たりするなど、土砂災害対
策の動きが広がっている。
だが細かな地形による水の

集まりやすさや雨の降り方
など、場所によって異なる
危険度の時間変化を把握す
ることが課題となってい
る。